資料１

「基本計画の進捗状況の把握・分析」の今年度の進め方（案）

１．令和３、４年度は、第６期科学技術・イノベーション基本計画中の１１の中目標のうち、「多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築」、「新たな研究システムの構築」を対象に、ロジックチャートと主要指標等の変化に基づく分析、主要施策のヒアリング等により、進捗状況を確認した。

２．今年度についても１１の中目標テーマのうち２つ程度ピックアップし、指標やロジックチャート等を用いて現状での研究開発の進捗を捉えつつ、進捗状況を担当府省等からヒアリングすることによりリアルタイム性を補完し、評価専門調査会においてさらなる深掘りの分析を行うこととする。

３．近年、高度な生成 AI をはじめとする先端技術は、従来の延長線上にはない急速な発展の兆しを見せており、研究開発の完了にとどまらず、社会実装される等によりイノベーション・エコシステムが形成される（その道筋が見える）ことが重要である。（統合イノベーション戦略２０２３、「イノベーション・エコシステムの形成」）

４．評価専門調査会での深掘りするテーマを選定するに当たり、研究開発の重要性だけでなく、社会実装までにどの程度課題が有るのかも考慮してはどうか。

　研究開発が達成されてから、迅速な社会実装化につなげるために、研究開発期間中から、社会実装に向けての用意が出来ないか、それらの準備をどのように進めるのかの観点、項目等を検討。

５．一方で、ロジックチャートや指標を活用した進捗状況の把握については、①主要指標等にかかるデータがリアルタイムで取得できないこと、②政策効果が出るまでに相応のタイムラグがあることの２つの構造的な遅延要因が存在していることから、リアルタイムでの状況把握には限界があるとの指摘がなされていることに留意が必要である。（ヒアリング等で補完）

資料１

「基本計画の進捗状況の把握・分析」の今年度の進め方（案）のイメージ

〇第６期科学技術・イノベーション基本計画においては、その実効性を高めるため、指標を用いながら基本計画の進捗状況を把握し、その評価をCSTI評価専門調査会において継続的に実施することとしている。
〇令和３年度は「研究環境の再構築」について試行的に実施。
〇令和４年度は、各テーマに係る指標を把握しつつ、「研究環境の再構築」、「オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進」について深堀分析を実施。研究環境の再構築は若手研究者支援総合パッケージと連動させた評価を実施。
〇令和5年度は、各テーマに係る指標を把握しつつ、深堀するテーマを２つ選定（イノベーション・エコシステム、スマートシティ、研究開発・社会実装、大学改革の内）。指標にはすぐに反映されない定量指標だけではなく、政策の進捗を定性的に捉え、将来の社会実装を見越したルール・環境整備も視野にいれた観点で進捗把握を実施。これまでの検討を踏まえ基本計画の進捗状況の把握に向けた評価手法の改善も検討。さらには第7期基本計画に向けて、第６期のレビューに繋げるための効果的アウトプットを創出。
〇具体的なイメージは以下のとおり。

例えば、これら４つの中目標について、深掘りの検討として次のような検討を行う。

①先行する基本計画等を参照し、その政策の背景や課題設定等を分析する（まずは直近の５期基本計画との差分を分析する。）。

②一昨年、昨年度と同様の手法でロジックチャートを整理する。

③また、政策パッケージについては、各府省から登録されている施策・事業の進捗状況をヒアリングする。

④これらを組み合わせて、各中目標の進捗状況をフォローしていく。

【第６期科学技術・イノベーション基本計画】
基本計画中の「中目標」（11テーマ）

①サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出
②地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続的イノベーションの推進
③レジリエントで安全・安心な社会の構築
④価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成
　├スタートアップ・エコシステム拠点形成戦略
　└世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成について
　└SBIR
⑤次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり（スマートシティの展開）
　└スマートシティガイドブック
⑥様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用
　└SIP・MOONSHOT
⑦ 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築（研究環境の再構築）
⑧ 新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）
⑨大学改革の促進と戦略的形成に向けた機能拡張
　├世界と伍する研究大学の在り方について最終まとめ
　└地域中核・研究大学パッケージ
⑩一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成
⑪知の価値の創出のための資金循環の活性化

「基本計画の進捗状況の把握・分析」における評価の視点

○　各指標における数値の増減などの動向や、ひもづいている個別の施策・事業の進捗・成否に一喜一憂するマイクロマネジメントではなく、ロジックチャートで表現された全体像としてとらえ、政策のひとかたまりとして大局的にフォローを行う。

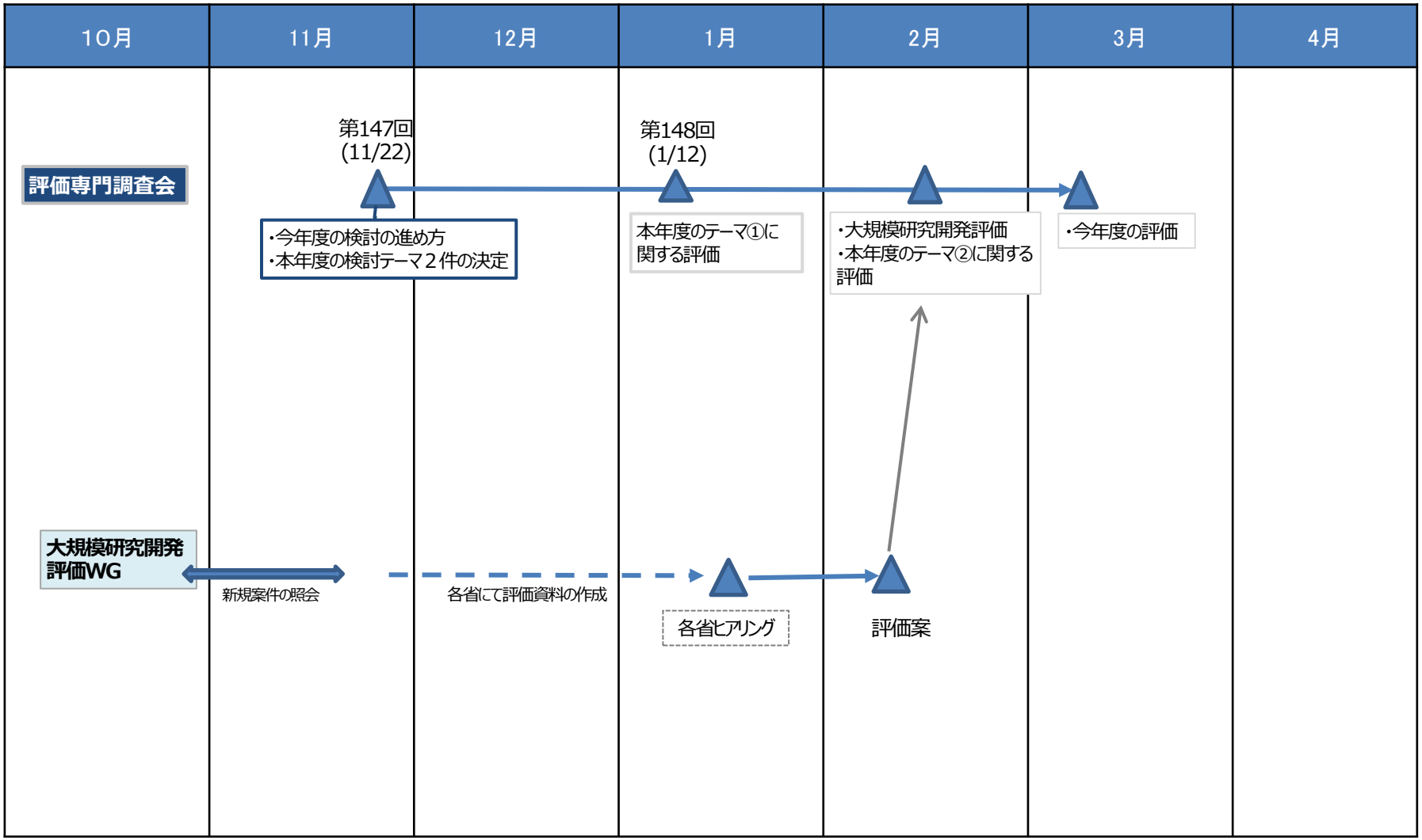
○　すなわち、各省庁がそれぞれ実施している個別の施策・事業のＰＤＣＡサイクルの部分最適化を超えた、より大きな構図で全体最適化を図るようなメタ評価とする。

○　このため、まずはロジックチャートを分析し、成否を分ける分岐点となりそうなところ、ボトルネックとなりそうなところ、全体の傾向を推測するのにちょうどよいサンプルとなるようなところなどの要点を抽出する。

○　そのうえで、各指標の動向を参照しつつ、ヒアリング等を通じて現状を把握し、所期の目標が達成できるか否かを見極め、必要な助言を行うものとする。

○　アウトプットとしては、優・良・可のような単純な評点付けではなく、全体最適化を図る観点から分析・評価したうえで現状を講評するとともに、それを踏まえた指摘又は助言をするような、評価専門調査会としての見解をとりまとめることとする。

今年度のスケジュール


10月
11月
12月
1月
2月
3月
4月
評価専門調査会
第147回
(11/22)
第148回
(1/12)
・今年度の検討の進め方
・本年度の検討テーマ２件の決定
本年度のテーマ①に関する評価
・大規模研究開発評価
・本年度のテーマ②に関する評価
・今年度の評価
大規模研究開発評価WG
新規案件の照会
各省にて評価資料の作成
各省ヒアリング
評価案